

令和 8 年度北秋田市総合戦略検証会議

検証会議委員による意見・提言集

— 第 3 次総合計画へつなぐ、委員からの提言 —

令和 8 年 9 月

北秋田市

令和 8 年度 北秋田市総合戦略検証会議による意見・提言

<北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略>

戦略 1 産業振興による仕事づくり・稼ぐ地域づくり

「主要園芸作物の見直しについて」

- ・ No. 4 「主な園芸作物販売額（主要 6 品目）【累計】」について。主要 6 品目について、気候変動や災害リスク等も踏まえ、地域に適した品目への見直しや追加は可能か。

「森吉山への交通手段の周知について」

- ・ No. 14 「森吉山県立自然公園入込数（延べ人数）」に関連した質問。森吉山への交通手段について、十分に周知されていない印象がある。大館能代空港からのアクセスや、昨年度実施した旧阿仁中学校からの直通バスなども、あまり知られていなかったように感じる。SNS 等も活用し、森吉山の魅力と現地までの交通手段をセットで、より積極的に周知してはどうか。

「阿仁スキー場のパーク＆ライドについて」

- ・ No. 14 「森吉山県立自然公園入込数（延べ人数）」に関連した質問。昨冬、旧阿仁中学校の駐車場に観光客が自家用車を駐車し、そこから大型バスで阿仁スキー場へ向かうパーク＆ライドを実施していたが、今年も実施する予定はあるか。昨年度は利用者が少なかった印象がある。

戦略 2 新たな人の流れをつくる移住・定住の促進

特段なし

戦略 3 結婚・出産・子育てをかなえる切れ目のない支援の推進

「出生数を目標指標から除外した理由について」

- ・ No. 27 「出生数【単年】」について。第 3 次総合計画では、なぜ出生数を目標指標から除外したのか。

戦略 4 住み続けたい、安心を築く地域社会の形成

「学校生活の満足度について」

- ・ No. 42 「県学習状況調査の質問肢「学校が楽しい」で『当てはまる』と答えた児童生徒の割合」について。県学習状況調査では、学力は県平均を上回っている一方で、「学校が楽しい」で「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は県平均を下回っている。勉強へのプレッシャーなどが影響している可能性

も考えられることから、学校生活の満足度についても課題の一つとして捉え、今後も分析・検討していく必要がある。

「中学校卒業後の状況把握について」

- ・No. 42「県学習状況調査の質問肢『学校が楽しい』で『当てはまる』と答えた児童生徒の割合」について。小・中学生については学力状況調査等の分析を行っていると思うが、中学校卒業後、高校生、大学生、社会人となった後の状況について、追跡調査等を行っているか。学校教員の集まりに参加した際、秋田県では高校生以降に活躍度が下がる傾向があるとの話を聞いたことから、高校卒業後も含めた状況を把握しているか確認したい。

「公営住宅のバリアフリー化と入居者構成について」

- ・No. 52「公営住宅等の入居率（入居戸数／全戸数）【累計】」について。ケアマネジャーとして高齢者に公営住宅を勧める際は、間取りだけでなく建物全体の使いやすさも判断材料としている。過去には、エレベーターがあってもストレッチャーが入らず階段で搬送した事例もあり、重度の方への紹介は慎重になる。バリアフリーやユニバーサルデザインの観点から安全性を高めることで、高齢者だけでなく幅広い世代が利用しやすい住宅になるのではないかな。また、建築年数や公営住宅の入居世帯構成、年齢層などを分析することで、課題がより明確になるのではないかな。

＜北秋田市総合計画＞

基本理念 1 健康でしごとにはげむ活力あるまちづくり

「将来を見据えた医療提供体制について」

- ・No. 70「市内の医療体制について整っており満足している市民の割合」について。医師確保が課題となっている中、診療所や個人医院の医師の高齢化が進んでおり、今後は医療機関の減少も想定される。将来を見据えた医療提供体制について、オンライン診療の導入なども含め、今から検討を進める必要がある。

「市民病院の産婦人科診療と妊産婦支援について」

- ・No. 70「市内の医療体制について整っており満足している市民の割合」について。市民病院から産婦人科がなくなったことについて、市民からの問い合わせも多いと思われるが、現在どのような対応や支援を行っているのか。

「開業医等の誘致について」

- ・No. 70「市内の医療体制について整っており満足している市民の割合」について。全国的に過疎化が進み、総合病院の医療体制の維持が難しくなる中、自治体によっては、開業医を誘致し、かかりつけ医と総合病院との役割分担を進めることで、地域の医療体制を確保している事例もある。本市において、開業医の誘致について検討・実施しているか。また、移住相談会等においても、医師を対象とした誘致や支援制度の周知を行っているか。

基本理念2 お互いが尊敬し支えあう明るいまちづくり

特段なし

基本理念3 命のたいせつさを学び文化をはぐくむ豊かなまちづくり

特段なし

基本理念4 自然を愛し環境をととのえる美しいまちづくり

特段なし

基本理念5 みんなで力をあわせる住みよいまちづくり

「市役所職員間の情報共有と連携について」

- ・No. 130「市役所職員の窓口や電話での対応が良いと答えた市民の割合」について。市民窓口では親切に対応していただいているが、市民窓口以外では対応に不満を感じることがあり、周囲からも同様の声を聞いている。人事異動等により、職員間で情報共有が十分に行われていない場面も見受けられ、対応の遅れや連携不足を感じることがあるため、職員間の連携強化に努めていただきたい。

その他

「異常気象や自然災害を踏まえたリスク管理について」

- ・昨年を象徴する漢字として「雪」と「熊」が挙げられるが、今年は酷暑により 40℃を超えるような異常気象も発生している。これらを一時的な出来事と捉えるのではなく、今後は何が起こるか分からないことを前提に、リスク管理の視点を取り入れた施策を検討していく必要がある。異常気象や自然災害が常態化していることを踏まえ、将来を見据えた取組を進めていただきたい。

「コンパクトシティの考え方について」

- ・今後のまちづくりにおいて、コンパクトシティの考え方についてどのように検討しているのか。行政コストの観点も踏まえ、個別施策ではなく全体的な考え方として伺いたい。

「地域づくりとウェルビーイングの考え方について」

- ・仕事柄、まちづくりや地域づくりに関する講演を行う機会が増え、改めて「まち・ひと・しごと」とは何かを考えるようになった。明治大学の小田切教授は、「まち・ひと・しごと」をあえてひらがなで表記していることの意義について述べており、その概念について改めて考えるきっかけとなった。個人的には、「まちづくり」と「地域づくり」は分けて考えるべきであり、両輪として進めていく必要があると考えている。地域の中では、発展する地域と衰退する地域が生じることも踏まえ、地域づくりの考え方を改めて整理・再定義していくことが重要ではないか。

また、ウェルビーイングについて考える機会もあったが、「ウェル」と「ビーイング」を分けて捉え、一人ひとりの幸福度をより細かく把握することで、その人に必要なウェルビーイング施策を届けられるのではないかと考えている。

「歴史・文化資源を活用した研究・教育分野の誘客について」

- ・全国的に熊への関心が高まる中、大学ではマタギや熊、山岳信仰などをテーマとした講義や研究も行われている。本市が有するマタギ文化や歴史的背景を生かし、大学のゼミ旅行や研究者等の受入れにつなげてはどうか。また、秋田犬ツーリズムのホームページでは体験や食などが紹介されているが、歴史的背景についても深掘りし、情報発信や研究者向けのコンテンツづくりに取り組んではどうか。

「旧4町を基礎とした地域活性化」

- ・社会教育委員として各地区を回る中で、旧4町それぞれの地域としての意識やつながりが今も根強く残っていると感じる。市全体を起点として物事を進めるだけでなく、旧4町それぞれを基礎として取組を進め、そこから市全体の活性化につなげていくという考え方もあってよいのではないか。

「地域資源を活用した研究者等の誘致」

- ・これまでも大学院生や大学教授が阿仁地区を訪れ、研究活動を行っている。くまぐま園をはじめ、森吉山の自然や植物など、本市には研究対象となり得る地域資源が豊富にある。こうした魅力を積極的に発信することで、大学や研究者等のさらなる誘致につなげられるのではないか。

5か年での総括について

「鷹ノ巣駅前の整備・活性化について」

- ・鷹ノ巣駅前は、JR 鷹ノ巣駅と秋田内陸線鷹巣駅の双方が立地している一方、観光情報が少なく、土産品の購入や飲食なども難しい状況にある。市の中心部である鷹ノ巣駅前について、観光情報や地域の商品などが集まる場所として、整備・活性化を検討してはどうか。

「土産品の販売拠点等の整備について」

- ・北秋田市では土産品を購入できる場所が十分ではないとの意見を家族から聞いた。他地域では駅を降りてすぐに地域の土産品を購入できる場所もあることから、鷹ノ巣駅前にも地域の商品を集めたセレクトショップのような場所があればよい。また、駅前だけでなく、道の駅や空港も含め、訪れた人がまた来たいと思えるような場所づくりについて、具体性を持って、できるだけ早く取り組んでほしい。

「鷹ノ巣駅のバリアフリー化について」

- ・鷹ノ巣駅にはエレベーターがなく、車椅子利用者にとって反対側のホームへの移動が難しいため、近隣市の駅を利用している方もいる。障がいのある方にも利用しやすい駅として整備することで、日常の利便性向上だけでなく、障がいのある方を対象としたツアーなど、新たな利用にもつながるのではないか。

地方創生関係交付金事業について

◆「奥秋田サステナブルツーリズムプロジェクト」

「外国人観光客の誘客に向けた取組について」

- ・外国人観光客の誘客に向け、昨年度は具体的にどのような取組を行ったのか。

「イスラム圏からの観光客への食事対応について」

- ・マレーシアやインドネシアなどイスラム圏からの観光客も訪れていることから、受入れに当たっては食事への対応も必要ではないか。交付金等も活用しながら、こうした外国人観光客に対応した食事メニューの開発などに取り組んでほしい。

「海外インフルエンサー招聘後の活用について」

- ・招聘した海外インフルエンサーによる情報発信や、撮影した画像等の素材を、その後の観光 PR に活用しているか。

「教育旅行市場の減少要因について」

- ・教育旅行市場の数値が下がってきているが、令和7年度に減少した要因は何か。

「インバウンド個人・少人数客の受入れについて」

- ・他自治体では、インバウンドの個人客や少人数のグループ客が宿泊施設へ直接問い合わせるケースがあると聞いている。広域的な周遊だけでなく、こうした個人・少人数の旅行者を地域で受け入れ、取りこぼしを少なくしていくことが重要ではないか。

「4市町村共通 KPI の評価について」

- ・KPI の実績値は4市町村を合算した数値となっているが、自治体ごとに見ると実績に差があるのではないか。各自治体の数値を見ることで、それぞれの課題も明らかになると考えられることから、北秋田市単独の実績値についても示すことができないか。4市町村全体の数値だけでは、本市の取組を評価することが難しいのではないか。

【参考資料】主な意見・提言に対する市の回答・考え方

令和８年度北秋田市総合戦略検証会議において、委員からいただいた主な意見・提言に対する市の回答・考え方を、会議での回答内容をもとに整理したものです。なお、回答を要しない意見・提言については掲載していません。いただいた意見・提言については、第３次北秋田市総合計画に基づく今後の施策や取組を進める上での参考とします。

北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（戦略１～４）		
意見・提言の要旨	市の回答・考え方	回答部局
「主要園芸作物の見直しについて」 No. 4「主な園芸作物販売額（主要６品目）【累計】」について。主要６品目について、気候変動や災害リスク等も踏まえ、地域に適した品目への見直しや追加は可能か。	主要品目は毎年、JAや農業者等と協議しながら見直しを行っている。近年は災害や鳥獣被害等も踏まえ、今後も農業者の意見を聞きながら、予算とのバランスも考慮し、適切に検討していく。	産業部
「森吉山への交通手段の周知について」 No. 14「森吉山県立自然公園入込数（延べ人数）」に関連した質問。森吉山への交通手段について、十分に周知されていない印象がある。大館能代空港からのアクセスや、昨年度実施した旧阿仁中学校からの直通バスなども、あまり知られていなかったように感じる。SNS等も活用し、森吉山の魅力と現地までの交通手段をセットで、より積極的に周知してはどうか。	森吉山への二次アクセスについては、「森吉山シャトル」を乗合タクシーとして運行し、阿仁合駅から森吉山阿仁スキー場への移動を中心に、樹氷観賞や登山、スキー等の需要に対応している。また、大館能代空港からのアクセスについても、タクシー事業者の協力を得ながら乗合方式による交通手段を確保している。WEB予約やAIを活用した仕組みも導入している。一方、バスは採算面の課題から撤退しており、森吉山周辺、特に奥阿仁方面への二次アクセスはまだ十分とは言えないと認識していることから、観光振興と併せて二次アクセスの充実に取り組んでいきたい。また、交通手段の周知についても、森吉山の魅力と併せて、利用できる交通手段や予約方法等を分かりやすく発信し、観光客が現地までの移動手段を把握しやすいよう取り組んでいきたい。	観光文化スポーツ部
「阿仁スキー場のパーク＆ライドについて」 No. 14「森吉山県立自然公園入込数（延べ人数）」に関連した質問。昨冬、旧阿仁中学校の駐車場に観光客が自家用車を駐車し、そこから大型バスで阿仁スキー場へ向かうパーク＆ライドを実施していたが、今年も実施する予定はあるか。昨年度は利用者が少なかった印象がある。	昨年度のパーク＆ライドは、観光庁の補助金を活用したオーバーツーリズム対策として実証的に実施したものである。当初は利用者が少なかったものの、シーズン後半には利用が増えた。一方、大型バスによる運行を採算ベースで継続することは難しいことから、今シーズンは実施する予定はない。今後は、混雑状況等の情報発信や阿仁スキー場駐車場への整理員の配置などにより、駐車場を効率的に利用できるよう対応していきたい。	観光文化スポーツ部
「出生数を目標指標から除外した理由について」 No. 27「出生数【単年】」について。第３次総合計画では、なぜ出生数を目標指標から除外したのか。	第２次総合戦略では出生数を目標としていたが、行政が出生数を目標として掲げることは、市民や当事者に様々な受け止め方をされる可能性があることや、多様な生き方への配慮が必要であることから、第３次総合計画では目標指標から除外した。一方で、産みたい方が安心して子どもを産み育てられる環境づくりは引き続き推進していく。	健康福祉部

意見・提言の要旨	市の回答・考え方	回答部局
「学校生活の満足度について」 No. 42「県学習状況調査の質問肢「学校が楽しい」で『当てはまる』と答えた児童生徒の割合」について。県学習状況調査では、学力は県平均を上回っている一方で、「学校が楽しい」で「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は県平均を下回っている。勉強へのプレッシャーなどが影響している可能性も考えられることから、学校生活の満足度についても課題の一つとして捉え、今後も分析・検討していく必要がある。	「学校が楽しい」で「当てはまる」と回答した割合は県平均をやや下回っているものの、年々改善傾向にあり、県平均に近い水準となっている。各学校では、学校生活サポート員を年々拡充し、安心して学校生活を送れる環境づくりに取り組んでいるところであり、引き続き、こうした取組を継続していきたい。	教育委員会
「中学校卒業後の状況把握について」 No. 42「県学習状況調査の質問肢『学校が楽しい』で『当てはまる』と答えた児童生徒の割合」に関連した質問。小・中学生については学力状況調査等の分析を行っていると思うが、中学校卒業後、高校生、大学生、社会人となった後の状況について、追跡調査等を行っているか。学校教員の集まりに参加した際、秋田県では高校生以降に活躍度が下がる傾向があるとの話を聞いたことから、高校卒業後も含めた状況を把握しているか確認したい。	高校生以降について、教育委員会として追跡調査は行っていない。高校については県立高校となるため、市教育委員会として卒業後まで継続的に追跡しているものではない。一方、中学校と高校との間では、「中高連絡協議会」などを通じて、それぞれの教育方針や進路、現状等について情報共有を行っている。	教育委員会
「公営住宅のバリアフリー化と入居者構成について」 No. 52「公営住宅等の入居率（入居戸数／全戸数）【累計】」について。ケアマネジャーとして高齢者に公営住宅を勧める際は、間取りだけでなく建物全体の使いやすさも判断材料としている。過去には、エレベーターがあってもストレッチャーが入らず階段で搬送した事例もあり、重度の方への紹介は慎重になる。バリアフリーやユニバーサルデザインの観点から安全性を高めることで、高齢者だけでなく幅広い世代が利用しやすい住宅になるのではないかと。また、建築年数や公営住宅の入居世帯構成、年齢層などを分析することで、課題がより明確になるのではないかと。	建替事業においては、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した整備を進めていく予定である。既存住宅についても、これまでも手すりの設置など部分的なバリアフリー化を実施してきた。また、公営住宅の入居者構成については、低所得者向け住宅であることから、若年世帯や長期間居住している高齢者など様々な世帯が入居している。建築年数や入居者構成などの詳細なデータは手元にないため、必要があれば整理のうえ、情報提供していきたい。	建設部
北秋田市総合計画（基本理念１～５）		
意見・提言の要旨	市の回答・考え方	回答部局
「将来を見据えた医療提供体制について」 No. 70「市内の医療体制について整っており満足している市民の割合」について。医師確保が課題となっている中、診療所や個人医院の医師の高齢化が進んでおり今後は医療機関の減少も想定される。将来を見据えた医療提供体制について、オンライン診療の導入なども含め今から検討を進める必要がある。	鷹巣医師団においても医師の高齢化が進んでおり、夜間当番医の負担軽減に向けた調整を行っている。また、開業医への支援として、開業支援補助金の拡充や医療機器の更新支援などに取り組んでいるものの、新規開業や医師確保は依然として厳しい状況にある。今後は、広域的な地域医療連携を進めるとともに、医療DXや診療所運営も含め、持続可能な医療提供体制の確保に取り組んでいきたい。	健康福祉部
「市民病院の産婦人科診療と妊産婦支援について」 No. 70「市内の医療体制について整っており満足している市民の割合」について。市民病院から産婦人科がなくなったことについて、市民からの問い合わせも多いと思われるが、現在どのような対応や支援を行っているのか。	市民病院では令和７年１２月に産婦人科の常勤医師が不在となったが、非常勤医師による診療を継続し、令和８年４月からは週２回の診療体制を確保している。妊婦健診などは可能な範囲で対応しているが、分娩については近隣市町村の医療機関で受け入れていただいている。また、妊産婦の負担軽減を図るため、「北秋田出産まるっと応援事業」を実施し、妊産婦通院サポート事業、妊産婦あんしんタクシー事業、待機宿泊支援などを行っている。	健康福祉部

意見・提言の要旨	市の回答・考え方	回答部局
「開業医等の誘致について」 No. 70「市内の医療体制について整っており満足している市民の割合」について。全国的に過疎化が進み、総合病院の医療体制の維持が難しくなる中、自治体によっては、開業医を誘致し、かかりつけ医と総合病院との役割分担を進めることで、地域の医療体制を確保している事例もある。本市において、開業医の誘致について検討・実施しているか。また、移住相談会等においても、医師を対象とした誘致や支援制度の周知を行っているか。	市では、開業支援のための補助制度を設けており、補助上限額を今年度から１件当たり１,０００万円から３,０００万円に増額している。開業医の誘致に取り組むとともに、既存の開業医についても医療機器の更新・整備等を支援している。また、移住施策においても、医師をはじめ医療スタッフや看護師等の誘致に取り組み、移住に関する補助制度と併せて周知している。現時点では医師からの具体的な移住相談や誘致の成果には至っていないが、今後も地域の医療体制確保に向けて取り組んでいく。	健康福祉部
「市役所職員間の情報共有と連携について」 No. 130「市役所職員の窓口や電話での対応が良いと答えた市民の割合」について。市民窓口では親切に対応していただいているが、市民窓口以外では対応に不満を感じることがあり、周囲からも同様の声を聞いている。人事異動等により、職員間で情報共有が十分に行われていない場面も見受けられ、対応の遅れや連携不足を感じることがあるため、職員間の連携強化に努めていただきたい。	人事異動の際には職員間で事務の引継ぎを行っているが、情報共有が十分でない部分もあったかもしれない。今後も職員間での情報共有を徹底し、適切な対応に努めていきたい。	総務部
その他		
意見・提言の要旨	市の回答・考え方	回答部局
「コンパクトシティの考え方について」 今後のまちづくりにおいて、コンパクトシティの考え方についてどのように検討しているのか。行政コストの観点も踏まえ、個別施策ではなく全体的な考え方として伺いたい。	都市計画マスタープランの策定を進めており、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方を基本としている。地域ごとに拠点を形成し、公共交通などのネットワークで結ぶまちづくりを理念として位置付け、検討を進めている。	建設部
5か年での総括について		
意見・提言の要旨	市の回答・考え方	回答部局
「鷹ノ巣駅前の整備・活性化について」 鷹ノ巣駅前には、JR 鷹ノ巣駅と秋田内陸線鷹巣駅の双方が立地している一方、観光情報が少なく、土産品の購入や飲食なども難しい状況にある。市の中心部である鷹ノ巣駅前について、観光情報や地域の商品などが集まる場所として、整備・活性化を検討してはどうか。	鷹ノ巣駅前が寂しい状況にあることは、市としても認識している。現時点では具体的な内容を申し上げられる段階ではないが、現在、JR 東日本と鷹ノ巣駅や駅周辺について様々な検討を進めている。具体的な内容については、もう少しお待ちいただきたい。	総務部
「鷹ノ巣駅のバリアフリー化について」 鷹ノ巣駅にはエレベーターがなく、車椅子利用者にとって反対側のホームへの移動が難しいため、近隣市の駅を利用している方もいる。障がいのある方にも利用しやすい駅として整備することで、日常の利便性向上だけでなく、障がいのある方を対象としたツアーなど、新たな利用にもつながるのではないかな。	鷹ノ巣駅へのエレベーター設置については、以前から市として JR に要望しているが、経常的な経費等の課題もあり、現時点では設置に至っていない。JR では、車椅子利用者等に対して人的な支援により対応していると伺っている。今回の意見も踏まえ、改めて JR と話をしていきたい。	総務部

地方創生関係交付金事業について		
意見・提言の要旨	市の回答・考え方	回答部局
「外国人観光客の誘客に向けた取組について」 外国人観光客の誘客に向け、昨年度は具体的にどのような取組を行ったのか。	台湾では、東北観光推進機構が主催する「日本東北遊楽日」への出展や商談会への参加、シンガポールでは JR が展開するイベントに参画し、秋田犬や食などの PR を行った。また、台湾、シンガポール、アメリカから海外インフルエンサーを招聘し、本市を含む地域の情報発信につなげた。データ分析については、秋田県が構築した「秋田県観光 DMP」の活用で秋田犬ツーリズムが取り組んでおり、今後さらに活用が進むよう働きかけていきたい。	観光文化スポーツ部
「イスラム圏からの観光客への食事対応について」 マレーシアやインドネシアなどイスラム圏からの観光客も訪れていることから、受入れに当たっては食事への対応も必要ではないか。交付金等も活用しながら、こうした外国人観光客に対応した食事メニューの開発などに取り組んでほしい。	イスラム圏からの観光客への食事対応については、ハードルが高い部分もあり、実際に食事を提供する民間事業者の協力が必要となる。海外で PR を行う際には、ベジタリアン対応など食事に関する情報も目につく。阿仁スキー場にも様々な国・地域から多くの外国人観光客が訪れていることから、どのようなところから着手できるのか検討していきたい。	観光文化スポーツ部
「海外インフルエンサー招聘後の活用について」 招聘した海外インフルエンサーによる情報発信や、撮影した画像等の素材を、その後の観光 PR に活用しているか。	事業の実施に当たっては、秋田犬ツーリズムと連携して取り組んでいる。WEB 広告についても効果測定を行っており、管内の宿泊施設では、マタギの湯を対象に実験的に WEB 広告を実施した。こうした取組の成果についても、秋田犬ツーリズムからフィードバックを受けながら事業を進めている。	観光文化スポーツ部
「教育旅行市場の減少要因について」 教育旅行市場の数値が下がってきているが、令和 7 年度に減少した要因は何か。	教育旅行については、本市というよりも大館市や小坂町が中心となって取り組んでいる。大館市では宿泊施設や農家民宿での受入れ、きりたんぼ作りなどの体験、小坂町では近代化産業遺産などを活用した誘致に取り組んでいる。教育旅行は札幌や函館などの需要もあり、北東北 3 県で競争が激しい。県内でも男鹿市、鹿角市、仙北市などが誘致に力を入れており、大館市は地理的にこれらの地域の上に位置することから、教育旅行の需要を取り込んでいる状況にあると考えている。	観光文化スポーツ部
「インバウンド個人・少人数客の受入れについて」 他自治体では、インバウンドの個人客や少人数のグループ客が宿泊施設へ直接問い合わせるケースがあると聞いている。広域的な周遊だけでなく、こうした個人・少人数の旅行者を地域で受け入れ、取りこぼしを少なくしていくことが重要ではないか。	インバウンドについては、体験を提供する小規模な施設でも受入れが増えてきている。教育旅行については受入れ規模の面で制約があるが、インバウンドの個人客や少人数のグループ客については、徐々に受入れができるようになってきている。	観光文化スポーツ部
「4 市町村共通 KPI の評価について」 KPI の実績値は 4 市町村を合算した数値となっているが、自治体ごとに見ると実績に差があるのではないかと。各自治体の数値を見ることで、それぞれの課題も明らかになると考えられることから、北秋田市単独の実績値についても示すことができないか。4 市町村全体の数値だけでは、本市の取組を評価することが難しいのではないかと。	秋田犬ツーリズムについては、単独の市町村では十分な効果が得られないとの考えから、4 市町村が連携して取り組んできた経緯がある。各市町村の実績を掘り下げて分析することの必要性は理解できるが、本事業の検証シートについては、4 市町村が連携して実施する事業として、4 市町村全体の数値で評価せざるを得ないと考えている。	観光文化スポーツ部